レジリエントな組織力基盤強化に向けて～JTA中長期普及戦略「NEXT100」立案・推進事業
－3年間の成果と課題－

公益財団法人日本テニス協会

事業実施の背景・課題・目標

【事業実施の背景・課題】

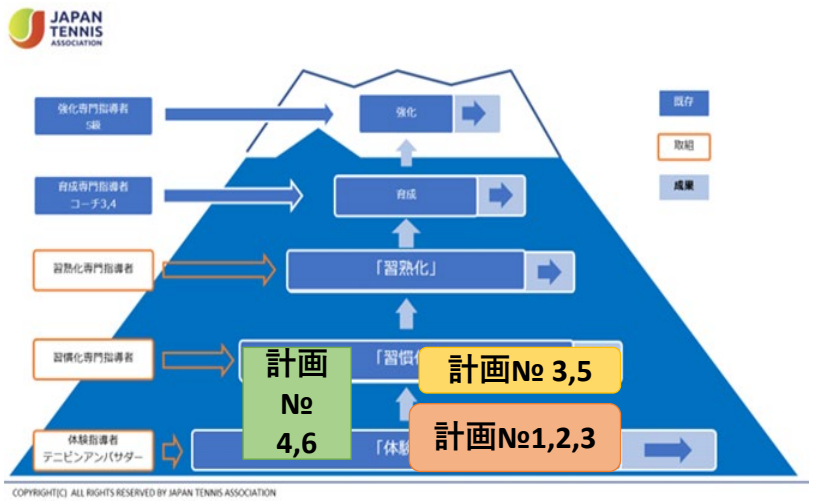
テニス人口は減少傾向にある。2019年度のテニス環境実態調査（日本テニス協会,2020）によると、日本のテニス人口は、推定343万人とされ、2012年度の推定373万人から30万人減少している。人口が減少するなか、テニスの競技人口減少を食い止め、続的に発展して行くためにはどのような環境を構築していったらよいのだろうか。我々日本テニス協会としては「テニス人口拡大のためには、ジュニアにおける普及活動が必須であり、特にテニス体験の機会を増やす活動と**仕組みが必要**な状況である」（日本テニス協会，2023）と課題を認識している。

その中でも**全国の児童にテニスの面白さを体験できる機会を提供する仕組み作りが最重要課題である。**これまでTennis P&Sプログラムを活用し普及活動を展開し一定の成果を上げてきた。しかし、テニスは、サッカーやバレーボール・バスケットボールのように、小学校体育で取り上げられてこなかったことから、全国に約636万人いる児童（文部科学省,2019）がテニスの面白さに触れる機会は他種目に比べて極めて少なかった。**全国の児童にテニスの面白さを体験する機会を提供する**ことができれば、将来のスポーツ活動にテニスを選択する可能性が高まり、テニス人口拡大が期待できる。

日本テニス協会（以下,JTA）は、2018年に普及/育成/強化を連係し「拡大再生産」の好循環を生み出する戦略「日本のテニス」の中長期戦略プランを作成した。「スポーツ団体の経営力強化」事業活用した取組の中で、小学校学習指導要領改訂に合わせた体育の**テニス型学習教材「テニピン」の開発と普及**は、これまで、**テニスに触れる機会のなかった未体験・未経験者層にアプローチすることに成功した。**この活動をさらに推進し、拡大再生産のビジョンを機能させて行くためには、**事業の担い手としての指導者の養成が必須の課題**である。本事業では、**テニピンにより「体験する」、Tennis　P&Sで「始める」、カラーボールにより「続ける」**の各ステージの事業を支える**人材を養成するシステムを確立**し運用することを目的とする。

【目標】

上記人材養成システムを確立することで、競技未体験・未経験者層へのアクセス数を増加させ、Tennis P&Sによる習慣化、そしてカラーボールマッチを通じたテニス技能の習得と習熟を進め、**低年齢からシニアに至るまでの全年齢層におけるテニスの普及によりテニス界がレジリエントな組織として持続していくための基盤構築が**目標である。その基盤を通して、さらにテニスのスポーツとしての魅力・価値を高めることにつながると考える。競技人口の拡大は、育成・強化へと接続するだけでなく、登録及びマーケティング活動で得られる収益により組織基盤を強化し、更なる**普及活動の発展へと拡大再生産する好循環を創出**することが期待できる。



本事業における具体的な取組内容

計画№１　【人材育成】
テニピンリーダー（指導者）の養成のための取り組み
実施期間：令和5年～令和7年
取組内容：
・講習会（教員・コーチ対象）立案計画・実施
・資格認定講習会カリキュラム作成運用
・講習会用テキスト作成運用

計画№２　【認知向上】
テニピン認知活動における情報発信及び講師派遣
実施期間：令和5年～令和7年
取組内容：
・小学校への認知向上活動(FAX,教育媒体等を活用）
・用具提供、講師派遣、イベントによる実施率向上活動
・ガイドブック増刷及び改訂版の作成運用

計画№３　【認知向上】
テニピン・P&S融合体験イベント
実施期間：令和5年～令和7年
取組内容：
・テニピン、 Tennis P&S体験融合イベント実施

計画№４　【価値構築】
テニピンの教育的価値及び教材価値向上　教本作成
実施期間：令和5年～令和7年
取組内容：
・出版社やテニスメーカーと連携したコンテンツ開発（教科書・動画・用具等）
・テニピンの学術的価値の構築
・テニピンのテニス育成・強化及び教育（資質能力育成）との連携プログラムの構築（サステナビリティ）
・テニピンの小学校展開を越えた取組（共生社会）

計画№５　【認知向上】
カラーボールマッチ認知活動及び体験機会の提供
実施期間：令和5年～令和7年
取組内容：
・１Day Camp及びTennis P&S特別講習会の開催
・運営フォーマットの作成と発信及び実績調査
・＜愛知モデル＞の展開と開催支援事業の実施

計画№６　【認知向上】
テニス普及webサイトの活用・コンテンツの充実と発信
実施期間：令和5年～令和7年
取組内容：
・テニピン、 Tennis P&Sの情報発信
・テニピンリーダー登録システム作成・運用
・公式SNSを用いた情報発信



NO.1　山梨県テニピンリーダー研修会（写真：NHKサイトより引用）

令和７年度の取組内容及び進捗・成果（成果目標、KPI達成状況）・課題

計画№１【人材育成】テニピンリーダー（指導者）の養成のための取り組み

＜内容＞
・講習会（教員・コーチ対象）立案計画・実施（愛知,東京,山梨富山,福岡,千葉,奈良,愛媛,沖縄,北海道）
・資格認定講習会カリキュラム作成運用
・講習会用テキスト完本、運用（ポケモン　ニャオハとの連携）

＜成果目標・KPI＞
テニピン講習会（テニピンリーダー講習会含む）累積参加数及び指導者認定数
令和7年度：参加数410人、認定資格取得者合計300名
（達成率100%以上）

＜成果＞
・講習会（教員・コーチ対象）を全国各地にて実施、**合計410名が参加**し、そのうち**90名が認定資格を取得登録**した。計画段階のKPIで示した**参加予定数270名（達成率100％以上）を達成**することができた。資格登録者について**3年間を合算して合計300名**となった。令和8年年度内の講習会実施を予定しており、更なる登録者数増加を目指す。
・資格認定講習会カリキュラム及び講習会用テキストについては、**出版社と連携**のもと完本し、講習会で運用を継続している。

＜課題＞
・資格取得について、**教員には必要感を要していない**ことがこの３年間の取り組みで分かった。そのため、夏期に実施される体育実技講習会の中にテニピンリーダー講習会を実施することで、資格取得者を任意で増やしていくことに取り組んでいる。

計画№２【認知向上】テニピン認知活動における情報発信及び講師派遣

＜内容＞
・小学校への認知向上活動(FAX　19000校に展開：6月、9月、10月、3回実施）
・用具提供（募集20校／申込数1520校）、講師派遣（申込917校）、イベントによる実施率向上活動

＜成果＞
・小学校への認知向上活動のためFAX等を活用した認知活動を実施した。その結果、**1600校の用具申込み、800校の講師派遣申込み**があった。その中から**20校を選出し、用具提供を実施**した。これらの値は、この３年間、ほぼ同数の申込があり、**認知の定着が認められる。**
・無償提供キャンペーンの応募校を見ると、47都道府県すべてから応募があり、全国での認知が高まった。３年間の提供で**47都道府県全ての小学校への配布が実現できたことは大きな成果である。**

＜課題＞
・認知度が高まることで、用具無償提供や無償講師派遣の希望が多くあった。用具については、3200校近い応募校から20校しか選出できなかったり、講師不足により、出張授業にいけないということがあった。教員が出張授業にいくことは、クラスを空けることになり、物理的に不可能である。テニス関係者のテニピンリーダー資格取得者を拡大させ、こうした学校の要望に応えられるように組織づくりが課題である

＜成果目標・KPI＞　テニピン導入学校累積数／経験児童数／テニス継続累計人数
導入学校数：令和7年度：実施校310校（累積実施校導入校1290校）
※テニピンラケット売上数÷23人により実施校を算出／
テニピン体験数は、実施校×2.3学級により算出／体験数×0.3により算出



NO.1 松岡修造×今井茂樹　教員テニピン講習会

令和７年度の取組内容及び進捗・成果（成果目標、KPI達成状況）・課題

計画№３【認知向上】テニピン・Tennis P&S融合体験イベント

＜内容＞
・テニピン、 Tennis P&S融合体験イベント実施（ジャパンオープンテニピンイベント）
・ポケモンニャオハと連携した商業施設テニピンイベント（イオンモール羽生、むさし村山）
・テニピンムービーの制作と活用（イベントやSNSから発信）

＜成果＞
・テニピン、レッドボール（Tennis P&S）の融合プログラムを構築し、日本テニス協会主要大会やイベント内で実施した。具体的には、JTAも主催大会やイベント内で実施し**総勢100名程が参加し**、認知向上につなげることができた。
・商業施設テニピンイベントでは全3日間で750名以上の参加があった。ポケモンと共同開発した「テニスエボリューションプログラム」冊子を配布し、参加者のイベント後の継続性へつなげた。
・カラーボール体験体験イベントは、**全国179回実施**（1月15日現在）された。

＜課題＞
・テニピン・ Tennis P&S融合イベントについては、令和8年度より、TーROGプログラムとして、新たなプログラムを構築して、展開していく。Tはテニピン、Rはレッドボール、Oはオレンジボール、Gはグリーンボールの略である。これはスウェーデンがROGプログラムとしてITF（国際テニス機構）カンファレンスにて提案されたものを日本のオリジナルであるテニピンを加えて、新たに世界に普及プログラムを発信しようという試みである。こうした知見はこのJSCの助成金事業の課題から得られたものである。



NO.3 テニピン・Tennis P&S融合体験イベント



NO.3　イオンモールでのイベント

計画№４【価値構築】テニピンの教育的価値及び教材価値向上　教本作成（①と連動）

＜内容＞
・出版社やテニスメーカーと連携したコンテンツ開発（教科書・動画・用具等）
・テニピンの学術的価値の構築
・テニピンのテニス育成・強化及び教育（資質能力育成）との連携プログラムの構築（サステナビリティ）及びテニピンの小学校展開を越えた取組（共生社会）

＜成果＞
・出版社と連携して、**テニピンリーダー講習会の教本を作成し、講習会にて運用**している。
・テニピンの教科書も作成、完本し、こちらは全国の小学校に無償配布を検討している。
・**能登半島支援の一環でテニピン教室を５か所で開催した。**その成果として子どもたちの**ポジティブ感情が高まるという学術的価値**を見出すことができた。この成果は学術誌に投稿済みである。
・特別支援学校や幼稚園、シニア層など、多様な場でテニピンが取り上げられるようになり、**共成社会に貢献できるプログラム**であることが確認された。

＜課題＞
・今年度は**ガイドブックの改訂作業**を行い、新たな知見を加えて「テニピンの教科書」として更新された。全国の学校への配布・活用の具体として、早急にウェブサイトからダウンロードできるようにする。



NO.4　テニピンリーダーテキスト（講習会テキスト）

令和７年度の取組内容及び進捗・成果（成果目標、KPI達成状況）・課題

計画№５【認知向上】カラーボールマッチ認知活動及び体験機会の提供

＜内容＞
・カラーボールマッチの体験イベント「１Day Camp」と地域の中心的指導者を対象とした「Tennis P&S特別講習会」を連係して開催し、指導法を実践的に伝達した。
・カラーボールマッチの運営フォーマットを作成し全国に発信した。
・各地域のカラーボールマッチ開催体制構築と自走的運営を支援するため，カラーボールマッチ開催支援事業を実施し，12府県から**17の事業（昨年比116%）**に支援した。

＜成果＞
・23の都道府県からの報告において、**396大会、6,089エントリー**の実績が報告されている。目標値（580大会、9,280エントリー）及ばないが、参加数で**（昨年比176%）**を達成した。

＜課題＞
・都道府県経由の情報発信では、**実質的な主催者にカラーボールマッチの情報が充分伝達されなかった。**民間クラブにおける開催数の把握が困難であった。



NO.5 カラーボールマッチ

成果目標・KPI　カラーボールマッチ大会開催数／エントリー数
R7年度： 396大会 /6,089 エントリー（達成率65.6%）

計画№６【認知向上】テニス普及webサイトの活用・コンテンツの充実と発信

＜内容＞
・テニピン、Tennis P&Sの情報発信　・テニピンリーダー登録システム作成・運用
・普及マンガの制作と発信

＜成果＞
・JTAの公式ホームページを情報発信の場として活用した。テニピンについてはレポートが提出された累計107件の実践レポートを日本地図に掲載、見える化した。各地で実施したテニピン講習会や出張授業はNHKや新聞、地方局など各メディアで報じられ、反響を得た。
・カラーボールでは、全国9地域の1dayキャンプ開催告知と実施報告掲載、発信した。

＜課題＞
・テニピンは全国で認知され、用具の無償提供申込状況からも実践校も増えてきていることが予測された。この予測された実践校数について、2026年度に実施したテニス環境調査によって、認知が高まっている結果が得られ、一定の成果を認めることができた。更なる飛躍を求め。ホームページの充実はもちろんのこと、SNSを駆使したプロモーションについて今後の課題としたい。

NO.6　テニス普及webサイトの活用







本事業を通じて感じた成果、課題等

計画No.1【人材育成】テニピンリーダー（指導者）の養成のための取り組み

この３年間で数多くの講習会を実施し、またテニピンリーダーの資格者を300名まで拡大することができたことは大きな成果である。講習会の内容についても、テニス普及をメインとして打ち出すのではなく、幼少期の運動スポーツ指導の在り方をメインとして取り上げ、その一つとして「テニピン」があることを紹介することで、教育への融合、教員へのアプローチができたことによって、教育への貢献にもつながったと思われる。課題としては、資格取得したテニピンリーダーへのサポート、情報提供を充実させることである。

計画NO.2【認知向上】テニピン認知活動における情報発信及び講師派遣

年間5回のＦＡＸを活用した全国19000校への無償用具提供、無償講師派遣を情報提供を行い、3年間で4000校近い学校からの申込があったことからも認知が向上したと言える。また、全国の学校に行き、テニピンの認知度を調査すると、認知している教員が増加していることも体感的に認知向上を得ることができた。47都道府県での実施の確認ができていることも成果であるが、今後は、47都道府県における実践校数の具体を把握する手立てを検討することが課題である。

計画NO.3【認知向上】テニピン・カラーボールマッチ体験イベント

融合イベントを実施し、子どもたちにテニスの面白さを伝えることができた一方で、集客に課題を残した。今後はT-ROG(Tテニピン~RED~Orenge~Green)プログラムとして魅力あるプログラムを作成し、全国での展開をしていくことが課題として挙げられる。

計画NO.4【価値構築】テニピンの教育的価値及び教材価値向上　教本作成

出版社とコラボしてのテニピンリーダーテキストの刊行、これまで知見を統合したテニピン教科書の発行、能登半島支援における子どもたちへのポジティブ感情向上への貢献など、テニピンの教育的価値を発信できたことは成果である。テニピンリーダーを増やし、このテキストの配付数を増やしていきたい。

計画NO.5・カラーボールマッチ魅力体験イベント実施

市町村協会・民間クラブとの連携を密にし開催を支援することで、開催数・参加者数の拡大と動向の確実な把握を進めて行きたい。

計画NO.6【認知向上】テニス普及webサイトの活用・コンテンツの充実と発信

情報発信の場としてテニピンのサイトを有効活用、テニピンリーダーに認定資格者の登録システム運用はこの3年間の成果である。今後はＳＮＳも駆使しながら効果的な情報提供できる環境を構築していきたい。

【本事業を踏まえた将来的な構想】

・テニピンがもたらす教育観の貢献に係る知見を積み重ね、体育授業への実現を目指す。

・T-ROGプログラムのトライアルを令和8年度に実施し、プログラムの構築を目指す。構築されたプログラムは全国で一般化されるように、動画や冊子などを作成し、全国に提供する。加えて、ATF（アジアテニス機構）、ITF（国際テニス機構）でのカンファレンスにて、日本独自の取り組みとして提案し、世界にT-ROGプログラムの教育的価値を発信していく。

・テニピンリーダー養成に加えて、テニピンリーダーからテニピンマスターへの昇格システムをつくり、マスターには、カラーボールとの接続の知見を得てもらえるように、T-ROGプログラムを構築したい。



T-ROGプログラムを世界へ！